

日時： 令和5年7月11日(火)

出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、長谷川智、藤三休、三浦みちえ、光永ひかる、森山裕子、山岸順、山口しだれ、高橋謙哉(見学)

講師： 佐藤青樹

点数 師奨 課題「カラー」 互選 講評*佐藤青樹

7 金髪に染めて弱気の虫隠す 勝

絵が見え一読明快の句

6 ワンマンのカラーに染まるイエスマン 順

「ワンマン」と「イエスマン」の対比で上手くできました

5 青空へヒマワリ咲けと世の祈り 裕子

一読明快上手く出来ました

4 クラス会今日の気分はこのルージュ 勝

絵が見え一読明快の句

年度末カラーコロンが立ち並ぶ みちえ

年度末の予算消化の道路工事風景。深読みがいる句

校風は卒業生の置き土産 和昭

「校風」が「カラー」なのですね

3 口げんか今日は白紙の日記帳 ひかる

絵が見え一読明快の句

美しく日本を染める四季の色 裕子

句意はわかりますが、余韻が欲しいのでは

旧来の黒いまわしが良く目立つ 勝

カラーのまわしが増えたので黒色がよく目立つのでしょうか

旧来の黒いまわしが強く見え

2 さくらんぼの赤で決まったお弁当 しだれ

赤く売れたさくらんぼの弁当に子供が喜ぶ

モノクロの顔にうつすら紅をさす みちえ

余韻が欲しいのでは

白髪染め妻の拝借OB会 智

絵が見え一読明快の句 OB会は6音ともとれる

OB会妻の手を借り白髪染め

女房の厚化粧に犬が吠え 三休

句意は分かれますが、中六では

カラフルな羽のダンスでプロポーズ 和昭

女房の厚化粧に犬が吠え

一読明快の句

2 二色化へ世界傾き溝深く しだれ

句意はわかりますが、リズム感を勘案し

二色化へ染まる世界に住む懸念

瑠璃色の地球を汚す一欠片 裕子

「一欠片」は、何か具体的にとしては

1 がんこ親父自分の色を押しつける 順

一読明快の句。「色」は「父親の持論」なのでしようね

もう金婚あの白無垢は何色に ひかる

金婚へ初心を白無垢思い出し

バラよりもカラーが似合う君がいる 宣子

カラーの白い花が似合うのですね

クールビズ妻が選んだカラーシャツ みちえ

着るものは妻まかせ、お幸せですね

花ビラが髪に舞い降り美女の絵に 三休

花吹雪私も美女に見えるかも

1 白叙伝を好きなカラーで染め上げる 順

白叙伝を自分の色に染め上げる

白黒の写真心の色を塗る 勝

古写真あの日の色に染めてみる

色褪せた地図が迎える過疎の村

「地図が迎える」の絵が見え難い。課題吟は一読明快がよい

無色の日真つ赤な夕日目覚めさす

紫陽花へ夕日真つ赤な梅雨晴れ間

ワイシャツの衿にノリ付け笑う母

母親はなぜ「笑った」のでしょうか。絵が見え難いのでは

三原色ひとつ欠けても彩なさず

句意はわかりますが、余韻が欲しいのでは

黒マスクサングラスでの恐い顔

チンピラが肩怒らせてサングラス

色によりもう着れないと捨てるシャツ

剥げ頭タオルを滑らせピツカピカ

マスクとり口紅求め色試し

自由吟		森山裕子選		課題「配る」		三浦みちえ選			
軸 天 地 人		客		軸 天 地 人		客			
<p>最高の自由楽しむ独りぼち マンネリの風に萎びる思考力 脳トレと始めたことに行き詰まり</p>		<p>朝顔に会いにサンダル活気付く 人力車都会見物力出し 滝のよう水のかたまり落ちる梅雨 辞書代わりスマホ片手に舟を漕ぐ その言葉胸に絡んでほどけない 女房の小言の度に不整脈 癒しロボパッチリお目目話し好き 十六夜の月が微笑む雨上がり 同窓会上がり近い席となり 叱られた声で今では母叱る 早まったオール電化の暑い夏 草花の名前気になる路地散歩 清濁を泡で消してる金魚鉢</p>		<p>初物の縁起を配るおすそ分け アマゾンが黒ネコ君を酷使する 駅前のテイツシュでわかる世の変化 マンションのチラシ配りの手際よさ カタログの上で楽しく踊る指 共稼ぎ今日もいつものデリバリー 百歳の笑顔まわりに花が咲く 定年後妻や子供に気を配る 写メールで幸せ送る花便り 台風めからうろこの置き土産 永田町モチの準備に余念ない 年金の枠に気配り閉じ込める どの子にも同じようにと母の愛 笛を配り古里自慢する 置き配の便利憶えて無駄遣い 気配りの出来る嫁だとおだてられ</p>		<p>裕子 裕子 和昭 智 ひかる 順 順 順 宣子 ひかる ひかる 和昭 裕子</p>		<p>しだれ 智 宣子 みちえ 宣子 三休 しだれ みちえ 和昭 順 勝 和昭</p>	
自由吟		山岸 順選		課題「配る」		長谷川 智選			
軸 天 地 人		客		軸 天 地 人		客			
<p>お帰りの声を聞きたい縄のれん 叱られた声で今では母叱る 早まったオール電化の暑い夏 言いつ分を四捨五入して仲直り 清濁を泡で消してる金魚鉢</p>		<p>ハスの花おれの物だとカエル鳴く 草花の名前気になる路地散歩 人力車都会見物力出し 人間の巣食う地球が腐り出す 仏前に今日もハートのチョコを置く 物価高一品減らすダイエツト 辞書代わりスマホ片手に舟を漕ぐ 覚つかないスマホデビュー初メール 祝い酒祝儀はたいて酔い潰れ その言葉胸に絡んでほどけない 最高自由楽しむ独りぼち 早まったオール電化の暑い夏 お帰りの声を聞きたい縄のれん 叱られた声で今では母叱る</p>		<p>駅前のテイツシュでわかる世の変化 定年後妻や子供に気を配る 永田町モチの準備に余念ない 写メールで幸せ送る花便り カタログの上で楽しく踊る指 置き配の便利憶えて無駄遣い 共稼ぎ今日もいつものデリバリー どの子にも同じようにと母の愛 気配りの出来る嫁だとおだてられ 百歳の笑顔まわりに花が咲く ネット上嘘蔓延へ己の目 度の過ぎた気配りいらぬお節介 新婚の家にもチラシ葬儀場 マンションのチラシ配りの手際よさ 配られたテイツシュの怖さハンパない 出張の土産配りが女子社員</p>		<p>和昭 宣子 和昭 智 ひかる 勝 勝 しだれ 順 みちえ 裕子 ひかる</p>		<p>宣子 和昭 智 ひかる 勝 勝 しだれ 順 みちえ 裕子 ひかる</p>	
例会のお知らせ	令和5年10月10日(火) 13:00~16:00 富岡公民館		「犬吠」七月号 掲載会員句	これで良い決めた時から不安あり(しだれ) 司馬遷のヒーロー変わる新歴史(昇柳) 濾過されたふる里だけが消え残る(和昭) 核廃止無言で論ず資料館(裕子) キャッシュレス財布にたまる銭の数(順) 戦乱の二年目の夜いつ明ける(勝) 脱マスク三年間の無表情(みちえ)					
	「不利」互選 :3句 「わがまま」二人選:3句 自由吟 :3句								

川柳いろいろ

没句

一人選（よせばいいのに）
 三年目東大受験また落ちた
 国債を頼りに赤字先送り
 考古学家まで売って没入す
 親子乗り子供ヘルありママ未だ
 上機嫌に生き楽しくなるよせよ
 カラオケの音を最大しびれ顔
 軟水が体しつかり謝すよせよ
 腸が変われば病気が逃げるよせよ

自由吟

買得の野菜消費に四苦八苦
 触れ合いのチャンスアプリがプロデュース
 荒れた山残して父は遠に亡く
 胸襟の腹にイチモツGセブン
 順さんが台風蹴とばし川柳会
 藤井七段若さ光るし驕らない
 メモ書きの角におやつと孫の文字
 面白く汚点残した総理秘書
 終活の片付け過ぎへ味気なさ
 ドローンの操作を学ぶカメラマン
 ボンボンは社会に出て何してた
 今時は患者を診ずに画面見る
 欲しいな老いに止めを刺す薬
 ドクダミの白の十字にかしこまる

川柳の理論と実践

新家完司

さまざまな比喩

・張論（誇張法） 過大誇張と過小誇張がある
 疲れて死にそう 宇宙のような心 燃える想い
 一日千秋の想い 海より深い恩義 白髪三千丈
 蚊の鳴くような声 猫の額ほどの土地 虫の息
 ・落ち込んだ日の景色には色がない
 ・心配を止めたら羽根が生えてきた
 ・団地ごと墓地になりそうな高齢化
 ・換論 「掬は栄える 葵は枯れる」この掬は皇室
 （朝廷）を示し、葵は徳川幕府を示している
 シンボルのなものを取り上げ本体を類推させる手法を
 「換論」という。東京大学を「赤門」 おまわりさんに
 捕まったことを「パトカーに捕まった」というのも同じ
 ・リストラの滝に打たれている背広
 ・靖国に眠るラツパが鳴り出した
 ・声論（擬声語 オノマトペ）
 擬音語はにんげんや動物の声、そして物体が発する
 音などを真似した言葉。擬態語は聴覚では感じないもの
 を言葉で表現したものです。

ガヤガヤ ワンワン ドッスン ガタピシ

おずおず いそいそ ゆっくり すたこら
 このようでありふれたものではなく、あなたの感覚で
 新しい擬声語を生み出して下さい。
 ・こめかみにグワグワとくる我慢
 ・チャカポコと春が来た来た来た鄙の風呂
 ・うだうだとしてさえいれば治る風邪
 ・理論は理解して横へ

小学一年生の子が登校途中、薄暗い曇り空を見上げて
 「ワー 朝から夕方だ！」 この子が隠喩を知っていた
 からではありません。思ったままを言っただけです。
 「思ったままを言う」ことが「川柳の基本であり
 極意」です。理論は川柳を作るときは役立ちません。
 ただ、発表した作品を省みると、あるいは他者の
 作品の鑑賞や批判をするとき必要です。
 従って作句段階では理論を遠ざけ、必要に応じて
 理論的に分析するという対応をお勧めします。

鑑賞 犬吠 令和三年九号より

フラワーライン

・千紫万紅より
 紋白蝶午後の散歩か一羽だけ
 養生訓医師が宣うごもつとも
 コロナとは別検診は欠かさない
 オリパラへどこへ消えたかおもてなし
 押し入れに押し込めた物ごみと知る
 親の手から一歩踏み出す三輪車
 ワクチン予約一家総出の大仕事
 今年また覚悟の夏がやって来る
 コロナ禍で分かった居酒屋の多さ
 大谷のピッチャー四番夢じゃない

・黒潮集より

待望の五輪寂しい遠花火
 戦中戦後思えばコロナ乗り切れる
 ガラス戸の広さの四季を見る自粛
 名ラガー医学部までもトライ決め
 取る気ない責任だから軽く言い

金波銀波（各地句会報）より

母の日の母が身銭切る宴
 終章の増える医療費減る預金
 老い方も死に方も見せ母は逝く
 瞬く人間飲み込む大津波
 不都合は聞く耳持たぬ生き上手
 いつも混むかかり付け医の信頼度
 公平か歴史評価が難しい
 年聞いて勝ったと一人ほくそ笑み
 余生とは思っていない姉卒寿
 兩女欠員埋めに誘われる
 また一人顔が途絶える散歩道
 息子より優しくされて詐欺に逢い
 百までは生きる予定の足の裏
 良いことが待っていないので靴磨く

- 新谷みのり
- 宮内みのり
- 平蔵 柊
- 高橋和男
- 松岡好楽
- 河村 昌
- 宮永紀久子
- 小林洋子
- 藤川朝生
- 矢野明郎
- 鶴岡かの
- 佐藤克己
- 関屋玲子
- 岡田やほこ
- 蓑田 奴
- 及川正治
- 伊藤春恵
- 丸尾純子
- 鈴木諄三

互選句 課題「生まれる」

令和五年

九月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
寂しいが嬉しくもある反抗期	少子化は生めよ増やせよ国の檄	欲の皮突っ張り詐欺に付け込まれ	心の中小さな疑惑芽が出てる	臨月の今や遅しと待つ廊下	TVから出て来ないかなうまい飯	今日もまた観測史上初を聞く	スーパーの卵孵化する温暖化	愛情がやっとなまれた彼氏間	五つ子ちゃん大歓迎の日本危機	メモ帳に疑惑生まれる走り書き	産声によるこび走る朝の窓	誕生日釈迦と一緒に徳がない	男にも今年の暑さ日傘さす	万物の始まり生んだビッグバン	あの頃が夢であつたら引き返す	日めくりのひと日ひと日を確と生く	命名の墨鮮やかに子の名前
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
					母親が晴れて輝く出産日	シングルマザー強い心を応援す	整形の秘密をばらすうまれた子	何回も生まれ変わる美容外科	焼け跡に復興の芽が顔を出す	貝殻を土産に渡し恋生まれ	子は宝憶良のクシヤミ聞こえそう	出来るなら100年冬眠してみたい	窓辺から出来たての風薫る朝	過疎の地に響き渡った呱呱の声	初孫のおしめを変えていざ散歩	コウノトリご機嫌直し飛び廻れ	